

PRESS RELEASE

Portrait / Still life 人物と静物

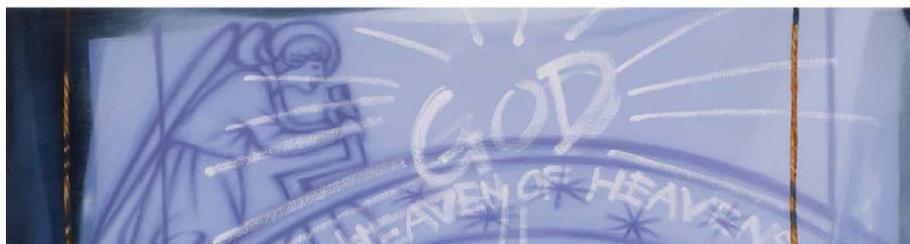
五十嵐 大地

熊倉 涼子

清水 浩三

松浦 美桜香

Michaël Borremans



この度ギャラリー小柳では、2024年2月3日（土）から3月30日（土）の会期にてグループ展「人物と静物」を開催いたします。静謐な人物画で知られるミハエル・ボレマンズは、数多くのポートレートを描いていますが、一方で静物をモチーフとする作品も手がけています。いくつかのコレクションを描いた《Commutation》（2008年）は一見静物画に見えますが、ボレマンズはこれもまたポートレートであると捉えています。ギャラリー小柳は本作から想を得て、人物と静物の間をゆらめくように対象そのものにアプローチする五十嵐大地、熊倉涼子、清水浩三、松浦美桜香による作品を展覧いたします。

五十嵐大地は、樹脂を用いて複製した桃の静物画を展示します。桃は古事記や世界各地の神話にも記されているように古くから生命力や多産、不死を象徴してきました。五十嵐は桃を鉄粉と顔料を混ぜた樹脂で複製していますが、それは複製の過程で変形し傷ついてしまいます。複製した桃の内部に生まれた空洞は、桃の表面をなぞった樹脂の薄さを物語っています。五十嵐はその桃を撮影し、さらにそれを写実的に描きながら、複製の過程で原型が変化する様や、人の認識における本質の所在を探っています。

熊倉涼子は、かつて想像されていた世界の形と、ケルベロス座という現在では使われていない星座を題材とした作品を展示します。熊倉は歴史史料から図像を組み合わせて制作したモチーフを撮影し、それを描いています。この図像は、かつての信仰や想像といった曖昧な存在をこの世に具現化し、強固なものにさせてきました。熊倉はこれらのモチーフを通して、現代においても本当は世界の輪郭は曖昧であり、過去の世界観のようにいずれ上書きされ、全く異なる形になっていくのではないかと示唆しています。

清水浩三は、重力をきっかけにものが変容していくさまに焦点を当てて制作しています。本作は、17世紀ごろの植物図に描写された、花が咲きながら球根や根が露わになっているチューリップから想を得ました。清水はそれを生きながら死んでいるという矛盾した状態に留まっていると捉え、重力の影響を受ける土粘土を制作過程に用いると同時に、絵画の平面性を強く意識しながら画面構成を行うことで、相反する状況を別の方法で表現しています。形成された土粘土の地面に接する面が画面の多くを占め、充満や空白、膨張や収縮、空と地の両方からの光など、対立する現象が混在する本作は、具象的でありながら描かれているものや状況が一目では把握できない奇妙な印象を見るものに与えます。

松浦美桜香は、自ら作成したドールなどの立体作品を、木炭や油彩で平面に落とし込み、その際に生じるギャップや質の変化に関心を持ちながら制作しています。いびつでシュールにも見えるドールは本来動かないものですが、木炭で描かれたドールはある種の美しさを纏い、絵の中では生きているもののようにだと松浦は述べています。これまで一つの対象をポートレートのように描いてきた松浦は、本作では複数の対象を描いています。鑑賞者が第三者の視点から、物やその表情に感情移入できるような作品を追求しています。

展覧会初日、2月3日（土）の午後5時から7時まで、作家在廊にてオープニング・レセプションを行います。ぜひお立ち寄りいただけますようお願いいたします。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。

ご掲載の際にはご一報いただけますよう、よろしくご依頼申し上げます。

ギャラリー小柳

【広報用図版】

※ご使用の際は、下記キャプションとクレジットラインを表記いただくようお願いいたします。

※下記ご承知おきの上ご使用くださいますようお願いいたします。

- ・ 図版のトリミング不可
 - ・ 図版への文字載せ不可
 - ・ 図版の二次使用禁止、ご使用後は速やかにデータを破棄してください。
-



[キャプション]

五十嵐大地

Peach and Peach Seed #1

2024年

キャンバスに油彩

[クレジットライン]

© Daichi Igarashi



[キャプション]

熊倉涼子

Still Life with Artifacts about the World

2023年

キャンバスに油彩

[クレジットライン]

© Ryoko Kumakura



[キャプション]
清水浩三
チューリップ
2023年
キャンバスに油彩
[クレジットライン]
© Kozo Shimizu



[キャプション]
松浦美桜香
The scene of the doll I
2023年
木炭紙に木炭
[クレジットライン]
© Mioka Matsuura

【参考用図版】



[キャプション]
ミハヤエル・ボレマンス
Commutation
2008年
キャンバスに油彩
[クレジットライン]
© Michaël Borremans / Courtesy of Gallery Koyanagi

【展覧会概要】

展覧会名：人物と静物

出展作家：五十嵐大地、熊倉涼子、清水浩三、松浦美桜香、ミハエル・ボレマンズ

会期：2024年2月3日（土） - 3月30日（土）

[オープニング・レセプション：2月3日（土） 17:00 - 19:00]

開廊時間：12:00 - 19:00

休廊日：日／月／祝祭日

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

アクセス：

東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7番出口より徒歩1分

東京メトロ丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9番出口より徒歩5分

お問い合わせ：ギャラリー小柳

Tel: 03-3561-1896

Mail: mail@gallerykoyanagi.com

<http://www.gallerykoyanagi.com>

五十嵐大地

- 1996 東京都生まれ
 2019 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 2022 東京芸術大学大学院絵画専攻油画研究分野修了

個展

- 2023 「The state of things」 Gallery Blue 3143 (東京)
 2022 「Sweet Spiral Garden」 biscuit gallery (東京)
 2021 「gjallarhorn」 biscuit gallery (東京)

グループ展

- 2023 「境界域」 biscuit gallery (東京)
 2022 「或る絵肌-物語るマチエール」 日本橋三越美術サロン (東京)
 2021 「第6の予言 “The 6th prophecy -The first sentence-” KITTE 丸の内 (東京)

熊倉涼子

歴史の中で人々が世界を理解しようとする過程で生まれたイメージを元に、絵画を制作。あるひとつの事柄に対して多面的な視点で図像を集め、それを元に作品を構成している。そのようにして同じものに関する性質の異なるイメージを等価に扱うと共に、写実的な描写や落書きのような線などの複数の描写法を混ぜたり、画中画やだまし絵の手法を用いて描くことで、視覚的にも揺さぶりをかけ、目に見えるものとは何かを問う作品を制作している。

- 1991 東京都生まれ
 2014 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業

個展

- 2023 「イメージの皮」 銀座蔦屋書店アートウォール (東京)
 2022 「Mitákuye Oyás'inj」 GALLERY ROOM・A (東京)
 「Transient Images」 日本橋三越本店美術サロン (東京)
 「Merkmale」 RED AND BLUE GALLERY (東京)
 2019 「coniunctio」 MEDEL GALLERY SHU 帝国ホテルプラザ (東京)
 2018 「Pseudomer」 RED AND BLUE GALLERY (東京)
 2016 「PICTOMANCY」 RED AND BLUE GALLERY (東京)
 2013 「Frame In-out」 GALLERY KINGYO (東京)

グループ展

- 2023 「ホルベイン・スカラシップ成果展 2023」 N&A Art SITE (東京)
 熊倉涼子・岡田舜 「S(ch)ein」 TAV GALLERY (東京)
 2022 「The Fairest Fairs #1」 TAV GALLERY (東京)
 2021 「シブヤスタイル vol.15」 西武渋谷店美術画廊 (東京)
 「HOLBEIN ART FAIR 2021」 +ART GALLERY (東京)
 「MITSUKOSHI Art Weeks」 日本橋三越本店 (東京)

- 「Everything but...」 Tokyo International Gallery (東京)
- 2019 「STATION! in PACK 2019」 Post Territory Ujeongguk (ソウル)
「MID CORE」 TAV GALLERY (東京)
- 2018 熊倉涼子・永井天陽「DI-VISION/0」 TAV GALLERY (東京)
「ANOTHER LENS 新たな視点」 JR 上野駅 Break ステーションギャラリー (東京)
- 2017 「密柑山スケッチブック」 (リトグラフ展) See Saw Gallery +hibit (愛知)
「そ」 (日本文化藝術財団奨学生展) 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学外苑キャンパス (東京)
- 2016 「吉原芸術大サービス」 旧吉原地区 (東京)
- 2015 「シブヤスタイル vol.9」 西武渋谷店美術画廊 (東京)
「シブカル祭。2015」 パルコミュージアム (東京)
「ASIA WEEK NEW YORK」 Bernarducci Meisel Gallery (ニューヨーク)

受賞、その他

- 2021 第 34 回ホルベイン・スカラシップ奨学生
- 2019 群馬青年ビエンナーレ 入選
- 2017 FACE2017 損保ジャパン日本興亜美術賞 入選
- 2014 多摩美術大学卒業制作展 福沢一郎賞
- 2013 平成 25 年度 日本文化藝術財団奨学生
- 2011 第 47 回神奈川県美術賞 準大賞受賞

清水浩三

- 1989 群馬県生まれ
- 2011 同志社大学法学部政治学科卒業
- 2012 Central Saint Martins College of Art and Design Foundation Diploma

展覧会

- 2022 「6 Artists」 ギャラリー小柳 (東京)
- 2021 「slip」 倉敷芸術科学大学 ZONE (岡山)
- 2019 「Avoid a void」 延世大学校 学内ギャラリー (ソウル)
- 2018 「Hidden Place | 絵画に生まれ、絵画に還る」 広瀬川美術館 (群馬)
- 2017 「ghost planning - 0 + | 描くことの展示」 旧安田銀行担保倉庫 (群馬)

松浦美桜香

平面や立体など多様なメディアを扱いながら、独自の造形表現を行なっている。

- 2001 東京都生まれ
2020 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻入学

個展

- 2023 「wsiw」 GALLERY ROOM・A (東京)
2023 「the scent of beautiful blossoms」 Hidari Zingaro (東京)
2023 「Une 妙」長亭 GALLERY (東京)

グループ展

- 2023 アートフェア「アートフェア東京 2023」東京国際フォーラム (東京)
2023 「6drawings」biscuit gallery (東京)
2022 「デッカいダンス」R for D (東京)
2022 「familiar faces」De Huidenclub (ロッテルダム、オランダ)
2022 「grid」biscuit gallery (東京)
アートフェア「MEET YOUR ART FEATIVAL 2022」恵比寿ガーデンプレイス (東京)
「影に水を射す」DOMICILE TOKYO (東京)
2021 「ブルーピリオド×Artsticker 第3期」hotel koe Tokyo (東京)
2021 「nature X unnatural」Room_412 (東京)
2021 「generic angels」プライベート (東京)
2021 二人展「ニュー・タイプ」space33 (東京)

受賞歴

- 2023 GEISAI#22&classic タカノ綾賞
2023 上野の森美術館大賞展入選 (一次賞候補)
2022 changting gallery exhibition 2022 グランプリ
2022 出光アートアワード 2022 学生特別賞
2021 シェル美術賞 2021 ユアサエボン審査員賞
2020 FACE2021 入選

ミハヤエル・ボレマンズ

1963年ベルギー中西部のゲラルスベルゲン生まれ。アントワープ在住。

ベラスケスやマネなど伝統的な西洋絵画の技法とテーマに強い関心を寄せている。日常に潜む不穏さや危うさを、曖昧で矛盾に満ちた画題で表現する独特の雰囲気を持ち、具体的な意味や物語を拒むコンセプチュアル・アートの影響も強く見て取れる。近年は絵画から派生した映像作品も制作している。

日本では2008年にギャラリー小柳で個展「Earthlight Room」、2014年には原美術館にて個展「ミハヤエル・ボレマンズ：アドバンテージ」、2020年には金沢21世紀美術館でマーク・マンダースとの二人展「ミハヤエル・ボレマンズ マーク・マンダース | ダブル・サイレンス」を開催した。